

2025年度(令和7年度)事業報告

福祉型障害児入所施設 木埋学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

① 福祉型障害児入所施設 20名

② 短期入所事業 2名

(2) 県市町村等からの受託、補助事業等

(3) 地域における公益的な取組

① 町内の清掃活動(イオン清掃・町内一斉清掃)

② ペットボトルキャップ回収(キャップリサイクル及び、ワクチン代への寄付)

(4) 運営方針

家庭から離れて生活する児童の中には、不安や愛着形成に課題を抱える者も多く見られることから、当学園においては、日常生活の支援を通じて、児童の健全な発達及び成長の促進に努めてまいりました。

児童の入所状況については、近年、措置児においても家庭復帰の方向で児童相談所が支援を進める傾向が見られており、現在、2家庭が家庭統合に向けた支援を児童相談所と連携し課題を整理しながら段階的なサポートに繋がっています。また、最近は県外からの一時保護依頼が増加しており、直近の受入実績では5件中2件が県外の措置入所、2件は市外からの契約入所、1件は家庭復帰となっています。一方で、短期入所の利用は継続しており、家庭復帰の動きがある中においても、新たに施設入所を希望されるご家庭は増加傾向にあります。このため、関係機関との連携を図りながら、必要に応じた入所支援へ適切に繋がりました。また、近年増加傾向にある性的虐待への対応として、施設内における性に関する理解促進及び支援体制の強化に取り組んでおります。具体的には、児童相談所や外部講師と連携し、「こどもグループワーク」を実施するとともに、性教育の充実を図ってまいりました。加えて、児童相談所と連携した定期的な個別心理面談を継続することで、児童の不安や困りごとの軽減を図り、情緒の安定に繋がっております。

さらに、学校との連携を強化し、毎月開催される学校連絡調整会議において情報共有を行うことで、学校と施設が一体となった支援体制の構築を図っております。

職員に対しては、虐待防止及び権利擁護に関する意識の向上を目的として、各種研修会への参加を促すとともに、毎月の職員会議において虐待に関する理解と認識の共有を図るとともに、職員による虐待予防に関するミニ研修会を実施致しました。これらの取組により、職員一人ひとりの意識向上が図られ、児童支援の質の向上にも寄与しているものと考えております。あわせて、地域に開かれた施設運営を推進するため、実習生の受入れや施設見学の受入れを積極的に行っております。人材確保につきましては、引き続き重要な課題であり、次年度以降も継続して取り組んでまいります。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	職員の資質向上(資格取得) (達成率 50%)
現状と課題	・業務と並行して資格取得を行う職員が少なく、取得率が上がっていない。
取組の方向性	・資格応援制度なども活用してもらいながら、現場での必要な資格取得を推進し、意識改革に繋げる。
取組の成果	・昨年は 1 名の職員(児童指導員)が資格応援制度を活用し、介護福祉士の資格を取得されています意欲的に資格取得に取り組む職員が見受けられることから、こうした姿勢を他の職員にも広く啓発し、組織全体として向上心の醸成を図ってまいります。

実施施策	施設内の情報の発信 (達成率 50%)
現状と課題	・施設内での生活の様子や行事参加など伝えられる機会が少ない。
取組の方向性	・資格応援制度なども活用してもらいながら、現場での必要な資格取得を推進し、意識改革に繋げる。
取組の成果	・SNS での発信(同意了承のみのご家庭) ・学園だよりでの発信(同意了承・却下の双方のご家庭)

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	リーダーシップ力の向上 (達成率 80%)
現状と課題	・中堅職員自らの役割を理解し、責任を持って業務にあたる必要がある。
取組の方向性	・中堅職員は役割を理解した上で、内部研修の講師や実践を通じて、チーム力向上のためのスキルを高める。また、新採用・中途採用への計画的育成ができるよう、研修会やチューター育成も含め、体制の充実を図る。
取組の成果	・中堅職員が OJT を中心とした指導を担うことでチーム力の向上が図られ、新規・中途職員の計画的育成が進み、支援の質の安定に繋がりました。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	合理的配慮 (達成率 100%)
現状と課題	・意思疎通が困難な児童にも、多様な意思疎通の方法活用スキルや合理的配慮に乏しい。

取組の方向性	・虐待防止委員会を中心に、啓発活動や研修会を継続し、人権意識へのさらなる向上に努める。また、個々の特性に応じた児童への支援の充実を図る。
取組の成果	・施設管理が必要とされていた児童についても従来の対応を前提とせず、個々の特性に応じた環境調整や関わり方を職員間で検討・共有することで、施設に頼らない支援方法の実践に繋がっています。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	働きがいのある職場づくり（達成率 65％）
現状と課題	・残業が少なからず改善されているが、今後も継続していきたい。
取組の方向性	・事業所全体で各業務内容・作業手順の見直しや改善を進め、時間外労働の縮減や有給休暇の取得等の向上に努める。
取組の成果	・特性の強い短期入所利用者の受け入れ時には、必要に応じて職員配置を手厚くするとともに、繁忙時間帯における業務負担の偏りを軽減するため、タイムスケジュールの見直し・調整を行っています。

実施施策	健康経営の推進（社食の導入）（達成率 70％）
現状と課題	・職員の食事の偏りや金銭的負担が感じられる。
取組の方向性	・社食を導入し、事業所が支援することで、職員の金銭的負担が軽減されるとともに、日常的な行動で本人の意識や意欲に関係なく参画でき、バランスの良い食事提供を行う。
取組の成果	・健康経営の視点と連携し、管理栄養士が推奨する献立を参考に選択する運用とすることで、職員の健康維持・促進につながる取り組みとして実施しています。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	個別支援計画の充実（達成率 95％）
現状と課題	・重複障害（知的・発達等）で専門的ケアを必要とする児童が多いため、児童の特徴や状態、ニーズ等を把握するための適切なアセスメントの実施継続。
取組の方向性	・他職種とのケース会議やモニタリングを実施し、状況に応じた支援内容の見直し・変更をすすめ、児童一人ひとりの意思決定を尊重したサービスを提供する。
取組の成果	最重度の利用児を含め、家庭的な関わりを意識した支援の中で、本人の意思確認を丁寧に行い、多機関・他職種との連携やモニタリングを通

	じて支援内容の見直しを継続し、児童一人ひとりの特性に応じた支援の充実を図りました。
--	---

実施施策	職員の専門性の向上（達成率 100％）
現状と課題	・オンライン研修が増え、研修率は上がっており、定期的な周知も行えているため、継続して続けていきたい。
取組の方向性	・外部研修やオンライン研修に積極的に参加し、復命研修により支援技術を取り入れる。 ・こどもグループワーク(性教育)については、外部講師に依頼して力を入れているため、継続して取り組んでいく。
取組の成果	トラウマの理解や事例検討会、小児在宅医療多種職研修会など積極的に参加し、最新の支援技術の習得と実践への繁栄を図っています。また、子どもグループワーク(性教育)については、今年度は特定の2名の児童を対象としましたが、次年度は担当職員からの困りごとや課題を抽出し、それに基づいたテーマを設定し、より実態に即したグループワークに発展させていく予定です。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	リスク管理体制の充実（達成率 80％）
現状と課題	月1回の職員会議で、ヒヤリハットの内容・改善内容について報告を行い周知しているため、今後も継続していく。
取組の方向性	・ヒヤリハットの傾向を分析し、具体的項目を設定し改善に取り組む。
取組の成果	・ヒヤリハットやインシデント報告書は業務改善の重要なツールと位置づけ、事故に至る前段階で職員間の検討を行い、未然防止に努めています。また、事故に至ったケースについてはインシデント報告書を作成し、速やかな報告・連絡を徹底するとともに、要因分析と再発防止の検討を通じて、組織的な課題解決と安全対策の強化に繋がっています。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域貢献（達成率 100％）
現状と課題	・定期的に行っている活動には参加しているが、新しい取り組みまでには至っていない。
取組の方向性	・ペットボトル回収イオン清掃活動の継続 ・施設見学以来の定期的な受け入れ。
取組の成果	ペットボトルキャンプの回収活動に取り組み、改修したキャンプをワクチン購入に繋げる仕組みに参加しています。本活動については、地域企業

	であるイオンとの連携のもと実施しており、キャンプの対価が「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付されています。
--	---

実施施策	学生の実習・見学の積極的な受け入れ（達成率 100％）
現状と課題	定期的に学生の実習受け入れや、施設見学の依頼には順応に対応しているが、就職に結びついていない。
取組の方向性	・学生の実習や施設見学など継続して積極的に受け入れ、次世代の育成と障害福祉への興味・関心を持ってもらうとともに、学生実習のニーズを把握し、内容の充実に努める。
取組の成果	学生の受け入れを通じて施設機能を地域に開放し、福祉の魅力発信に繋げることを目的の一つに、相談支援事業所や関係機関と連携しながら、実践的かつ多角的な学びの機会の提供に努めている。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	緊急一時保護・短期入所の受け入れ（達成率 80％）
現状と課題	・発達障害児の一時的な受け入れ先がなく、学園への依頼が多い。
取組の方向性	・職員の配置体制やご家族へ施設の環境などを説明しながら、対策を十分に考え、受け入れの確保をしていく。
取組の成果	・県外からの一時保護依頼が増加する中、直近では受け入れ5件中2件が県外からの措置入所、2件が市外からの契約入所、1件が家庭復帰となりました。一方で短期入所依頼も増加傾向にあり、関係機関と連携し、必要に応じての短期入所利用に繋げています。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	BCP(業務継続計画)の構築と周知(感染症及び防災対策) (達成率 80％)
現状と課題	感染症及び防災業務継続計画の周知が職員に十分行えていない。研修会、訓練を通して、周知を行っていく必要がある。
取組の方向性	・感染症発生時の必要物品等の確保・感染症の予防と対応力を高める為の職員への研修を促し、感染予防の徹底を図る。 ・災害発生時に、児童・職員は迅速に対応がとれるように、研修会や訓練を通じて意識向上や災害時への備えを継続して進める。
取組の成果	・感染症及び火災発生時を想定したマニュアル整備と訓練の実施により、初動対応の迅速化と職員の対応力向上が図られ、緊急時における安全確保と事業継続体制の強化につながりました。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	関係機関との連携強化（達成率 80％）
現状と課題	・児童を取り巻く環境において、学園・学校・児相・家庭など、多くの関係機関と繋がりながら関係性を築いている中、双方の情報共有に漏れが生じることも見られている。
取組の方向性	・連絡帳、連絡票、伝達日誌などの情報伝達ツールの活用を継続するとともに、組織体制を意識した報連相に取り組む。
取組の結果	学校と就労支援事業所などの移行先との連携による将来形成や、家庭復帰に向けたプログラムの推進においては、保護者や児童相談所と協働しながら進めていくことが重要であり、その基礎となる報連相の徹底が不可欠であることから、これらを意識しながら取り組みました。

3 実績利用率

(%)

事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月
福祉型児童入所支援	20名	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	85%	90%	81.3%
短期入所	2名	30%	20%	35%	39%	39%	20%	39%	42%	23%	23%	25%	39%	31.2%

4 固定資産物品購入物

(単位:千円)

名 称	購入業者	執行額	購入日
なし			

5 修繕実施状況(大規模修繕を除く)

(単位:千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
すりガラス入れ替え工事	㈱熊野建設(7か所)	192	令和7年4月1日
給食課排水・床塗装工事	㈱中栄工業	437	令和7年5月16日
鍵穴修理・枠取替工事	㈱JOAT	87	令和7年5月23日
給食課ガス配管工事	東洋瓦敷㈱	79	令和7年5月26日
新館屋根修繕	㈱JOAT	481	令和7年5月28日
女子風呂場入口サッシ修理	㈱JOAT	45	令和7年7月30日
トイレ污水管詰まり修理	㈱JOAT	29	令和7年8月1日
屋外污水管詰まり修理	㈱JOAT	60	令和7年8月29日
新館食堂柱取り付け工事	㈱JOAT	33	令和7年8月29日

6 大規模修繕実施状況

(単位:千円)

名 称	請負業者	執行額	完了日
該当なし			